

■ 平成 27 年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	1,067 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	5,362 点
	6,429 点
整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等
閲覧	利用者 延 5,542 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

区分	事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
	常設展 北海道の文学	通年 (309 日間)	8,652	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料 1,350 点を紹介。(◎展示構成を次頁に掲載。)
	特別展 没後 1 年・渡辺淳一の世界 ―「白夜」の青春 リラ冷えを往く	4/18(土) ～ 6/21(日) (56 日間)	3,995	北海道が生んだ日本を代表するベストセラー作家、渡辺淳一が亡くなって 1 年。思春期から作家を目指して上京するまでの彷徨の季節、人間とは何かを問いつつ、最前線の現場で懸命に医学と文学の可能性を求め格闘した「白夜」の青春の日々を軸に、話題作のヒロインなども紹介。
	特別展 挿絵の美・大衆文化の黄金時代 ―大正イマジュリイの世界―	7/11(土) ～ 9/6(日) (50 日間)	3,788	大衆文化が栄え、書物や雑誌の出版が盛んに行われた大正時代。デモクラシーや生命主義の思想が唱えられ、西欧風のモダン文化が普及したこの時代は、近代国家への道を邁進する日本の短い青春時代とも呼ぶべき黄金時代だった。竹久夢二や落谷虹児、高島華宵らをはじめ、この時代を彩った挿絵文化の黄金時代を紹介。
	特別展 没後 50 年 文豪・谷崎潤一郎 ―愛と美を求めて	9/19(土) ～ 11/15(日) (51 日間)	2,876	文豪・谷崎潤一郎が亡くなって今年で 50 年。耽美主義に連なるデビュー作「刺青」から、関東大震災を機に関西に移住してとりくんだ「痴人の愛」「卍」、日本の伝統と美を発見した「春琴抄」「潤一郎訳源氏物語」「細雪」、老いとエロスの心理をみつめた晩年の「瘋癲老人日記」まで、芸術に生涯を捧げた谷崎の愛と美の世界を、松子夫人あての書簡など新発見資料を交えて紹介。
	ファミリー文学館 ネコ！ねこ！猫！！	11/28(土) ～ 1/17(日) (38 日間)	2,756	文学作品の中にも、古くから猫の姿があちらこちらに、あるときはどうどうと、あるときはひっそりと描かれている。そんな猫たちを小説・詩・短歌・俳句作品や絵本を通して紹介。
	特別展 「さとぼろ」発見 大正 昭和・札幌 芸術雑誌にかけた夢	1/30(土) ～ 3/27(日) (50 日間)	1,470	「さとぼろ」は 1925 年、札幌で創刊された詩と版画の雑誌。外山卯三郎ら北海道帝国大学予科生を中心とした札幌詩学協会が発行し、道外の前衛芸術運動からの刺激のもとダダイズムなど西欧新思想を反映したものだ。文学、美術の他、演劇や音楽などを含め、大正末期から昭和初期の札幌の文化シーンに衝撃を与えました。この芸術運動のうねりを当館所蔵の資料により紹介。

【文学館アーカイブ（新着資料）コーナー】

- ・第 1 期展示 [4 月 14 日(火)～6 月 28 日(日)]

〈北海道文学〉のヒロインたち

原田康子「挽歌」の「怜子」、三浦綾子「氷点」の「陽子」ほか〈北海道文学〉に登場する魅力的なヒロインを紹介。

- ・第 2 期展示 [7 月 11 日(土)～9 月 6 日(日)]

北海道文学のイマジュリイ

北海道作家の本の装幀・挿絵に注目し、本文とイメージの相乗による魅力を紹介。

- ・第3期展示〔9月19日(土)～11月15日(日)〕

文学と美術の邂逅—白樺派とアララギ

文芸誌「白樺」と「アララギ」を中心に、文学と美術が交差した大正期の様相を紹介。

- ・第4期展示〔2月9日(火)～3月27日(日)〕

江原光太と砂澤ビッキー北の詩的精神

詩人江原光太と彫刻家砂澤ビッキーの交友と関連作品を紹介。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎「札幌農学校」 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海道文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『仲予』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河野文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井廣治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、斎藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、白田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和初期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期（日数）	目標観覧（参加）者数（人）	観覧（参加）者実績数（人）	観覧（参加）率（％）	備考
講演会・セミナー・講話等	オープニングセレモニー	4/18(土)		60		「渡辺淳一展」関連事業
〃	文芸トーク「編集者が語る素顔の渡辺淳一さん」 講師：文藝春秋・幻冬舎・集英社の編集者	4/18(土)	60	82	136.7%	〃
〃	文芸講演会「渡辺淳一の恋愛小説の魅力と北海道」 講師：谷村志穂（作家）	4/26(日)	80	90	112.5%	〃
〃	ひとひら忌 ①献花、②朗読	4/30(木)		203		〃
〃	短編映画メイキング上映会	5/16(土)		83		〃
〃	文芸講演会「渡辺文学のヒロインたち」 講師：郷原 宏（詩人、文芸評論家）	5/24(日)	60	42		〃
〃	ギャラリーツアー 講師：当館学芸員	7/25(土)、8/23(日)		9		「挿絵の美展」関連事業
〃	朗読会「挿絵と朗読で楽しむ[怪奇美のイマジュリ]」 出演：宮下郁子	7/26(日)		40		〃
〃	文芸講演会「挿絵の美・大衆文化の黄金時代」 講師：山田俊幸（帝塚山大学教授）	8/2(日)	80	56	70.0%	〃
〃	朗読会「谷崎潤一郎を読む―『細雪』抄」 出演：松井信子	9/19(土)	60	105	175.0%	「谷崎潤一郎展」関連事業
〃	文芸トーク「谷崎潤一郎の文学を語る」 講師：辻原登（作家）、池澤夏樹（当館館長）	10/10(土)	80	103	128.8%	〃
〃	「猫」川柳句会 講師：岡崎 守（北海道川柳連盟会長）	11/29(日)	80	30	37.5%	ファミリー文学館関連事業
〃	朗読会「猫と親しむ」 出演：ボランティアグループ	12/2(水)、12/16(水)、1/13(水)	60	179	298.3%	〃
〃	読み聞かせランド「ネコとあそぼう！」 出演：トムテ	12/5(土)		42		〃
〃	大人のためのワークショップ「猫・豆本をつくらう！」 講師：関口敦子	1/15(金)		20		〃
〃	ギャラリーツアー「『さとぼろ』発見展を楽しむ」 講師：当館学芸員他	1/31(日)、2/14(日) 3/13(日)、3/27(日)	80	26	32.5%	「『さとぼろ』発見展」関連事業
〃	ワークショップ「リノカットでつくる私の蔵書票」 講師：関川敦子	2/14(日)		10		〃
〃	朗読と音楽のつどい「『さとぼろ』を懐かしい響きとともに」 出演：ロケット姉妹	2/28(日)		43		〃
〃	朗読会「朗読で味わう『さとぼろ』と旧き札幌」 出演：朗読を楽しむ会、みゆき語りの会	3/3(木)、3/17(木)	60	82	136.7%	〃
〃	ワークショップ「ポップアップ工作―電車のある札幌風景」 講師：松本 浦	3/13(日)		9		〃
夏休み文学道場	「中・高生のための創作講座」	7/29(水)～7/31(金)	20	21	105.0%	〃
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、当館ロビーに作品展示	11/28(土)～1/17(日)	3,000	4,227	140.9%	〃
〃	小・中・高生短歌コンテスト表彰式	11/28(土)		53		〃
ファミリー文学館	ワークショップ「ゆらゆらネコ」	11/28(土)～1/17(日)	2,000	344	17.2%	〃
映画鑑賞会	「遠き落日」	5/6(水)	80	83	103.8%	〃
映画鑑賞会	「細雪」	9/27(日)	80	80	100.0%	〃
映画鑑賞会	「鍵」	11/8(日)	80	95	118.8%	〃
市町村連携事業「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	21市町村 24会場	1,200	1,566	130.5%	〃
市町村連携事業「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催した。	1市町村 1会場	500	1,412	282.4%	〃
文字・活字文化の振興事業	「谷崎源氏を描いた画家たち」 講師：奥岡茂雄（前札幌芸術の森美術館館長）	10/31(土)	60	80	133.3%	〃
古典の日記念朗読会	朗読：ドラマチックリーディンググループ蔵	11/6(金)	60	191	318.3%	〃
月例朗読会	朗読：朗読表現「ゆうの会」ほか4団体	年10回	600	628	104.7%	〃
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	15回開催	700	633	90.4%	〃
ロビーコンサート	「バレエとギターデュオコンサート」 「クラシック音楽の夕べ」	11/3(火) 11/5(木)	120	103	85.8%	〃
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2015」 展示室の夜間開館等を実施	7/17(金)	200	287	143.5%	〃
小計			9,400	11,117		
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(309日間)		5,542		
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(309日間)		2,556		
負担金事業計			9,400	19,215	204.4%	
※ 講演会・セミナー・講話等	池澤館長連続講演会(6回)、荒川洋治講演会、特別講演会	4月～3月		643		
※ 文学館カレッジ	・文学案内人、谷崎潤一郎、韓国現代文学、生涯読書会、川柳教室、絵本学、源氏物語の7講座	5月～3月	640	603	94.2%	
※ 協働事業	高校教育研究会石狩支部研修会	7/14(火)		18		
※ 文学館まつり	ギャラリー文学館、文芸講演会、子ども広場、秋のミニ色紙づくりなど	9/23(水)	300	319	106.3%	
※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	500	906	181.2%	
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(309日間)	100	162	162.0%	
自主企画事業計			1,540	2,651	172.1%	
教育普及事業参加者 計			10,940	21,866	199.9%	

IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「没後1年・渡辺淳一の世界」関連資料調査
- ② 特別展「挿絵の美・大衆文化の黄金時代」関連資料調査
- ③ 特別展「没後50年 文豪・谷崎潤一郎」関連資料調査
- ④ ファミリー文館「ネコ!ねこ!猫!!」関連資料調査
- ⑤ 特別展「「さとぼろ」発見」関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「佐藤泰志の場所」関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「ミッフィーのたのしいお花畑」関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「2016年の宮沢賢治—科学と祈りのこころ」関連資料調査
- ⑩ 次年度のファミリー文学館関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「手仕事の日本と民藝思想」関連資料調査

V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① 岩永善信ギターコンサート実行委員会
岩永善信ギターコンサート
(平成27年4月25日 北海道立文学館地階ロビー)
- ② しの笛北奏会
山口千壽笛演奏会
(平成27年5月23日 北海道立文学館地階ロビー)
- ③ 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第22回中川町短歌フェスティバル
(平成27年6月1日～10月31日 中川町)
- ④ 新緑のバロック実行委員会
新緑のバロック
(平成27年6月5日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑤ 井上仁一郎ギターコンサート実行委員会
井上仁一郎ギターコンサート
(平成27年7月2日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑥ こころのコンサート実行委員会
こころのコンサート
(平成27年7月3日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑦ 宮下祥子ギター教室
猪居謙&亜美ギター・ジョイントリサイタル
(平成27年7月4日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑧ 國松竜次ギターコンサート実行委員会
國松竜次ギターコンサート
(平成27年8月8日 北海道立文学館地下ロビー)
- ⑨ 鉄道員へのオマージュ実行委員会
吉田峯男出前コンサート ギターひき語りのための「鉄道員へのオマージュ」
(平成27年9月5日 北海道立文学館地下ロビー)
- ⑩ ムジカ・アンティカ・サッポロ
古楽への誘い VOL.6
(平成27年9月27日 北海道立文学館地下ロビー)

- ⑪ 「北海道ゆかりの文学を読む」朗読会
第17回北海道ゆかりの文学を読む朗読会
(平成27年10月18日 北海道立文学館講堂)
- ⑫ 若狭弘樹ギターコンサート実行委員会
若狭弘樹クラシックギターコンサート
(平成27年10月22日 北海道立文学館地下ロビー)
- ⑬ ロメウス弦楽四重奏団
ロメウス弦楽四重奏団第1回演奏会
(平成27年10月23日 北海道立文学館地下ロビー)
- ⑭ 北海道詩人協会
北の詩祭
(平成27年11月1日 北海道立文学館講堂)
- ⑮ 札幌アマデウス室内合奏団
札幌アマデウス室内合奏団演奏会
(平成27年11月14日 北海道立文学館地下ロビー)
- ⑯ 特定非営利活動法人 絵本・児童文学研究センター
絵本・児童文学研究センター 第20回記念文化セミナー「人類の行方」
(平成27年11月15日 小樽市民会館)
- ⑰ 日本弦楽器制作者協会ギター部門有志
FIESTA ギター銘器の工芸美と名曲のしらべ
(平成27年11月22日～23日 北海道立文学館講堂及び地下ロビー)
- ⑱ 松井信子朗読ステージ
松井信子朗読ステージ＝小林多喜二の命日によせて
(平成28年2月21日 北海道立文学館講堂)

VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、JR札幌駅、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催をPRするため、TV及び新聞紙上で有料広告を行った。
- ② 「北海道文学館報」第101号(6月1日付)、第102号(8月25日付)、第103号(10月29日付)、第104号(3月3日付)を発行した。

VII 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「没後1年・渡辺淳一の世界」図録の刊行
- ② 特別展「没後50年 文豪・谷崎潤一郎」図録の刊行
- ③ 特別展「「さとぼろ」発見」図録の刊行
- ④ 「平成26年度年報」の刊行

VIII その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入
博物館実習生 ー14名(受入期間 7月～2月。実習期間 2週間)